

琉球大学学術リポジトリ

沖縄関係 沖縄返還協定発効準備（各省業務引継問題）(4)

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43556

李公道
記事

アメリカ局長
 参事官
 北米オ一課長
 (子さ
 (林野)
 保長)

秘密標記(赤色)

第 438号
 昭和 46年 7月 29日

外務大臣 殿

準備委代表事務所
 高瀬

(件名)
 那霸空港に閣下の記事送付

引用公・電信
 日付・番号

本件に関する 7月 29日付琉球新報(朝刊)
 記事 6 部別添送付す。

付属添付 付箇空便(行) 付箇空便(DP) 付箇船便(貨) 付箇船便(郵)

本信送付先:
 本信写送付先:
 配付先:

GA-3-1 在外公館

46.7.30

那霸空港自衛隊と共同使用

民間機優先ねらう

管理権めぐり争う

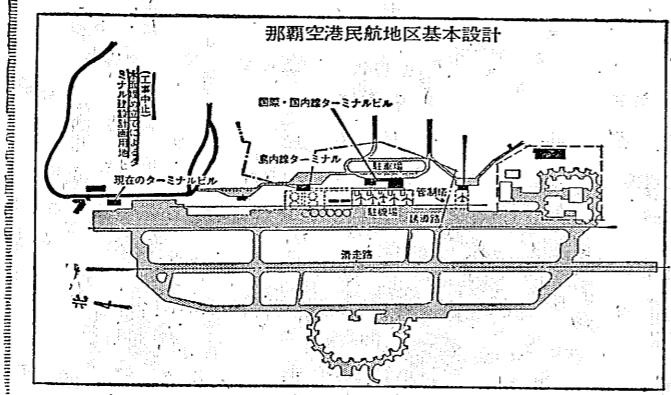
那覇空港の手に渡つてゐるといふのは、那覇空港の管理権を自衛隊が有しようとしていたため、これを民間空港として利用しようとする那覇市政府。那覇空港ターミナルKK、日本航空などがないと、民間空港建設の主導権をとどまらぬ。このほか民間機器発売用を前提とした那覇空港飛航地区基本計画もある。空港管理権を自衛隊が掌握することになれば、第一種空港認定として「日本の晴空の玄関」の夢は消え、またたび軍用飛行場になってしまふのを民間航空界は憂々と懼る。運輸省につい、民間専用空港の建設ができるものぞんない。しかし、この場合でも陸海軍は「自衛隊との共用飛行場でなければならない」として計画を堅持するのである。

那霸空港は、那覇空港交換の中でも「通関品」になっていた。このためして琉球住民側に返される米軍基地の「自」当然、民間空港となるものと想得

タントに運転し、このほど完成しました那空港 民航便が基本た。それによるターミナルビルは、計画は10年代の中期をめどして建設予定地である中央東側面で、長期計画で次のようになっている。それはひととて現実的である。とする。外に過かな姿はない」と意を強く案している。『民間局でこれが

ターミナルビルの位置は、現在の中央東側面へ移し、國際、本邦線をロータリーバークイン方式で、島内線はセンターにて下

那空港ターミナル
遙かなる那
用を留めどし
空港コーサル



式で一ヵ所をねらひ配置する。ここに於ける不満は大きい。
投資額は九十七億円(米軍施設の撤去費を除く)。施設利用料より建設計画は七年・八年、七年・九年、七年・十年の三段階に区分してある。
(七年七月) 国際 本土
線の旅客ターミナルは、現ターミナルを改築し使用する。このナルを改築した理由は、開港以来東側面に新ターミナルビルを建設する。島内線は米軍施設跡のペースオブレーションをおもい〇六亿元を改築して使用する。国際本線のエプロンは現航空エプロンと海浜地区エプロンを使用し、島内線はベースオブレーションをおも一〇六亿元前の既設エプロンを使用する。
(七年八月) 国際 本
線旅客ターミナルは移転。エプロンも新ターミナル面を使用する。島内線は改築使用する。
(七年八月) 国際 本
土移設ターミナルは新ターミナルを建築。島内線が駆逐された時点で増築する。
通商局内に於けるものとの運営はほとんどない。しかし民間運輸者によることが多いため、必ずしも形態がはつきりしない。自用商品、といわゆる返還されたものかわらず地元の意向からその方にさされている。

ところが一方、防衛省では六月未だ軍需荷物輸送を派遣して那覇空港を護衛するがたわら、民間の了解を得るために説得活動を開始している。自衛の日米安上自衛隊の航空隊、海上自衛隊の機雷掃除艇その他、新設と並行して那覇空港を使用する対潜哨戒機も那覇空港を使用する。
保衛委員会は
過半数の議員が反対意見を述べた。一方、自衛の日米安上自衛隊の航空隊、海上自衛隊の機雷掃除艇その他、新設と並行して那覇空港を使用する対潜哨戒機も那覇空港を使用する。
認したような態度は、國長主席の「自衛隊配備反対声明にもかかわらず、防衛省に同空港への移駐を認定した」とは思ひ難い。だから、共用を認めたとは思うが、現状でない。(同部長の話)と移駐を認めたことは、確かに困難でして、だから、共用を入れた。たゞ傾斜のないように傾くことに主力を置いていることでもいい。たゞのは、このランチは最終的なものではないので、政権としてよろしくお手配をしてもらおうかかる。自衛隊反対を前にして、これまでのところは、このランチからもうかかる。自衛隊反対を実際の計画の中でも処理するが、必ずしも明らかではないため現政府の態度は、直じでいいな。